

事業の背景・目的

北海道のタンチョウは1800羽程度まで個体数を回復したが、個体群としては十分な数ではなく、生息域も北海道東部に集中している。また、生息地不足などにより、人里近くに現れることも増え、事故などによる傷病タンチョウも増加している。本種の北海道個体群を安定的に維持するために、遺伝的多様性が保たれた飼育下個体群を維持することが必要である。また傷病個体を創始個体や、展示用として利用したりすることも重要である。北海道産のタンチョウ飼育施設は道内3動物園と岡山県の施設のみで、飼育数を増やし、飼育園館を増やしていくことが求められる。

事業の内容

事業① 傷病タンチョウ舎改善事業

傷病タンチョウ舎の仕切りの改善を行い、安全な飼育環境を整え、併せて傷病鳥の展示を行い、タンチョウ保護への普及啓発を行えるようにする。



事業② タンチョウ飼育施設改善

繁殖のためつがい飼育しているケージの改善を行い、つがい間闘争などを軽減し、繁殖しやすい環境を整える。



得られた成果

・傷病タンチョウ舎は個体間の事故を軽減するため、隣接する仕切りをポリカーボネート製に交換し、さらに2ケージ分の目隠しを撤去、柵を設置して、来園者に傷病タンチョウが観察できるようにした。今後は、野生タンチョウの傷病収容などに関する掲示物を作成していき、タンチョウレスキューガイド等のイベントを行い、野生タンチョウの現状について普及啓発を行う。

・鶴公園の繁殖つがい飼育ケージについて、隣接するつがい間の闘争を軽減するため、ケージ間にネットを張った。今後は隣接するつがい間のディスプレイのさらなる軽減に取り組み、繁殖成功が増えるように試みる。

